

平成 30 年 10 月 16 日  
愛 媛 大 学

## 日米交流で考えるコミュニティ再生 〈 フォーラムの開催 と 視察の実施 について 〉

ニューヨークを本拠とする日米交流団体ジャパン・ソサエティ（理事長・櫻井本篤）と、日本 NPO センター（代表・萩原なつ子）は昨年より 2 カ年計画で、農村部、非都市部など大都市圏以外で地域の課題解決に挑戦する日米で地域づくり活動に携わっている組織・団体のリーダーたちによる 2 国間の事業（地域人材の日米交流プロジェクト 英語名：Resilient and Vibrant Rural Communities in Japan and the U.S.）を行っています。

日本では農村部や中山間地域における人口の高齢化、若者の流出、それに伴う過疎や産業の衰退といった課題に対するさまざまな取り組みが国内各地で起きています。一方で米国でも地域の衰退は進んでおり、特に地元産業の活性化や雇用促進へのさまざまな動きがあります。本事業では、日米のこうした課題に取り組む実践者が相互訪問します。今年度は、米国人 5 名が日本各地の現場をめぐる。その訪問先の一つとして愛媛大学が選ばれ、大学を中心に、地域再生に取り組む活動について、愛媛大学地域創成研究センターとともにフォーラムおよび視察を実施することになりました。25 日には市民向けのフォーラムを開き、日米双方の経験を交換し合います。また 26 日は米国人が松山市内のまちづくりの現場を訪ね、アメリカの地域（ローカル）との違いや共通点、自国で活かせるポイントなどを五感で感じ取ってもらいます。

つきましては、地域へ広く周知いただきますとともに、取材くださいますようお願いいたします。

### 記

#### （ フォーラム ）

日時 : 平成 30 年 10 月 25 日（木）14 : 30～16 : 30  
場所 : 愛媛大学マルチゾーン型教室（教育学部 4 号館 4 階）  
プログラム : 別紙のとおり  
対象 : 一般の方  
定員 : 約 60 名（申込み先着順、参加費無料）  
参加申込方法 : 別紙のとおり（申込締切 平成 30 年 10 月 22 日（月）17 : 00）  
駐車場 : 無（公共交通機関をご利用下さい。伊予鉄道市内電車「赤十字病院前」下車、北へ徒歩約 3 分）  
※報道機関の方で、車で取材に来られる場合は、正門警備員室で会社名等をご記入の上、来客用駐車場をご利用ください。

#### （ 視察 ）

フォーラムの翌日、10 月 26 日（金）には、米国から来日中のフォーラムの登壇者たちがまちづくりの現場を訪ねます。

※スケジュールは別紙をご覧ください

※送付資料 4 枚（本紙を含む）

#### 本件に関する問い合わせ先

①地域創成研究センター 佐藤  
TEL:080-5193-4012  
Mail:sato.ryoko.mg@ehime-u.ac.jp

②社会連携課地域創成・防災チーム 若宮・田中  
TEL:089-927-8974 FAX:089-927-8820  
Mail:kensien@stu.ehime-u.ac.jp

## FORUM

# ローカルが育むグローバルな価値 ～日米交流で考えるコミュニティ再生～

日時：2018年10月25日（木）14:30～16:30

会場：愛媛大学マルチゾーン型教室（教育学部4号館4階）

主催：愛媛大学社会連携推進機構地域創成研究センター・法文学部、特定非営利活動法人日本NPOセンター（東京）、ジャパンソサエティ（ニューヨーク）、

協賛：米国大使館

後援：愛媛大学国際連携推進機構・南予水産研究センター、独立行政法人国際交流基金日米センター、Mitsubishi Corporation(Americas)、R&R Consulting、ANAホールディングス株式会社、United Airlines

情報インフラが発達した現在、これまでのローカル、ナショナル、グローバルという段階を経た広がりや、必ずしも当たり前ではなくなっています。地方の「まち」や「むら」、あるいは「集落」における小さな団体が発信する情報があつという間に世界に拡大し、個人や民間団体がダイレクトに反応するといった現象が起っています。

地域のキラリと光る宝や、それを生み出す技術・知恵、そして営みは、世界から直接評価され、グローバルに認められる価値を持っている。換言すれば、グローバルに通じる価値を育てることこそが、いま、日本のローカル（地方）にとっても重要となっているということです。

では現実には、その価値を育む主体は誰なのか？

本フォーラムでは、アメリカの農村部や非都市圏でコミュニティ再生に挑む地域リーダーたちとともに、「地域連携」「人材（担い手）育成」「食の可能性」などをキーワードに、日米で経験の共有と議論を行います。そして見出した、課題およびノウハウの違いや共通項を、それぞれの地域が抱える問題の解決に活かしていけたらと考えます。

報告者：

コニー・ライマース・ヒルド（ネブラスカ大学ルーラル・フューチャーズ研究所）

ジョナサン・ヒラディック（ルーラル・アフェアーズセンター）

サバンナ・ライオンズ（ローカルフード実践コンサルタント）

テイラー・スタッカー（エネジャイズ・クリントン）

リチャード・マッカーシー（スローフードUSA）

武岡英隆（愛媛大学南予水産研究センター）

清家裕二（こもねっと）

岩下紗矢香（株式会社地域法人無茶々園）

野中玲子（愛媛有機農産生活協同組合・まつやま子ども食堂そらいろのたね）

モデレーター：寺谷亮司（地域創成研究センター）

定員：約 60 名（申込み先着順）

参加申込方法：「地域創成研究センターフォーラム申込み」と明記の上、所属、氏名、連絡先（TEL、e-mail）を添えて下記までメール又は電話でお申込み下さい。  
（定員に達した場合のみお断りの連絡をさせていただきます）

\*同時通訳がきます。

\*終了後、簡単なレセプション（歓談の場）を用意しております。

※会場：愛媛大学マルチゾーン型教室（教育学部4号館4階）  
（松山市文京町3）



## EXCURSION

### まちづくりの現場を訪ねる

訪 問 者：米国から来日中のフォーラムの登壇者5名

#### 訪 問 先 1： 松山アーバンデザインセンター

訪問予定時間： 9:00～09:50

「公・民・学」が連携するまちづくり拠点。現地・現場のまちづくりを推進するため、中心市街地に拠点施設を構え、隣接して設置した憩いと賑わいの空間である「みんなのひろば」と「もぶるテラス」を運営しながら、将来ビジョンの検討や都市空間のデザインマネジメント等のハード面、まちづくりの担い手育成や地域デザインプログラム等のソフト面、双方のアプローチから、総合的なまちづくりに取り組んでいる。

#### 訪 問 先 2： 松山市三津浜地区

訪問予定時間： 10:30～12:00（三津浜地区を散策します）

かつては松山の玄関口として栄えた港町だが、交通手段の変化にともない人の流れが減少し、行き交う人の肩がふれあうほど賑わった商店街はシャッター通りと化し、漁具店や醤油蔵など暮らしを支えてきた産業も活力を失ってきている。しかし、地域には住みを失ったものの、木村邸\*をはじめ価値ある伝統的な建築物が多く存在する。そして近年は空き家を活用し新たな店舗や事業の展開、アーティストを含め移住する人が少しずつ増え、伝統的な建物の再生・活用が行政の支援を受けつつ、市民の手によって行われている。

\*木村邸 1881年建築の廻船問屋。地域の資源として再生・利活用しようと、2017年に松山市の助成を受け、多くのボランティアもかかわりながら、母屋の改修工事を行なった。現在はボランティアによって運営されており、ギャラリーやイベント会場、カフェ、住民活動の拠点などとして利用されている。